

久し振りの家族再会

遅い夏休みをとって10月16日から20日まで中国・杭州に、孫の顔を見に行ってきた。三か月を超えて目鼻立ちも整ってきて、しっかりと初孫体験の爺はその笑顔としぐさに籠絡されてしまった。正直うまれた直後の写真を「可愛いでしょう」と息子から送られても、「?」だったのが、よくしたもので3か月もたつと人類の種の保存のプログラム故か、本当に可愛くなる。まったくもって、月並みな爺爺馬鹿になりそうである。ところで今回は日本から妻と長男、オーストラリアから長女が合流し、また中国では



次男夫婦が出産・子育てで居候している実家のお父さん、お母さん、さらにその実家の跡継ぎである弟夫婦とその長男と、総勢12人で食事会を持った。日本語がわかるのが次男だけなので、直接自由に話せないもどかしさはあったが、初孫の存在の故か、先方の御家族とより一層暖かい交流ができた。また自分の家族もやはり初孫のお陰で、久し振りに一同に会し、家族の絆を改めて感ずる事ができた。折しも訪中の期間中は中国西部の成都などで反日デモが起きていたようだが、杭州では西湖博覧会で賑わっており、およそ反日という雰囲気ではなかった。18日には次男の会社の中国側親会社筋の総経理と会食をしたが、彼の尊敬する日本人は明治天皇だそうで、理由は清朝末期の西太后が毎朝200万円相当の朝食を飽食していた時に、明治天皇はおにぎりの粗食に甘んじ、国の事を思っていたからであるという。そして彼自身が中国共産党の地方組織の書記を兼務しているらしい

清野吉光氏のコラム 第25回

団塊 耕 志 録



清野 吉光(きよの よしみつ) 略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、松本深志高校卒業。1968年上智大学外国学部ロシア語科入学、1971年 中退。その後印刷関係など様々な職業に従事。1976年清水市の日の丸交通入社。1980年静岡市内の事務機器センターに入社。1982年システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年代表取締役社長就任。2000年株タクシーサイト創立、現取締役会長。2007年タクシーアシスト代表取締役社長に新任。現在に至る。

「量から質へ」

が、高速道路の関連会社を経営している知人は年間の納める所得税が1億円(一元13円)だそうである。中国の所得税率がどのくらいか知らないが、アメリカで颯盛を買った金融機関のCEO並みの収入が有ることは確かである。中国のタクシー運転手が懸命に働いて、手元に残る月収は4~5千円である。こういった格差は問題だと彼は指摘していた。が、43歳の彼自身やりの経営者で、出身地の無錫にレストランを持ち、利殖用のマンションを数件持つ、所謂勝ち組み富裕層のメンバーではある…。

ヒヤリハットの連続

中国に滞在中、次男の会社の車で移動させてもらった。中国の法人の車は運転手付が普通で、30代の若い中国青年がGMのBUICKワゴンを運転してくれた(何故日本車じゃないんだ!)が、これがそれこそヒヤリハットの連続である。ドライブレコーダをつけていたら、さぞかしヒヤリ



ハット教材が山と、取れるだろう! それも彼の運転がたまたま荒いのではなく、中国交通社会全般がそうなのである。まず歩行者優先の考えは無い。横断歩道の、しかも歩道者側信号が青(中国では緑と呼ぶが)なのに、平気(のように見える)で突っ込んで行って、ぎりぎりですり抜ける。また歩行者もなかなかなので、信号が赤でも渡ってくるし、横断歩道のない場所でもほとんど渡る。割り込み、飲酒運転、シートベルトを締めない、駐車違反は日常茶飯事である。うーん、これでは事故の起きない方が不思議だし、サーカスのような車と歩行者のやりとりで

は、ひとつ間違えば重大な人身事故につながってしまう。事実日本の年間交通事故死亡者が5千人を切ろうとしている今、中国では8万人を超えるという。人口が10倍だとしても、車の総台数では2008年末では日本とトントン、交通事故の死亡率は道路の整備状況や車の安全性など様々な事が影響すると思うが、やはり安全マナーが基本だと、中国でのヒヤリハット連発を経験するたびに改めて思う次第。

待望？の羽田国際化

20日に上海の虹橋空港から国際新ターミナル開業直前の羽田空港に帰って来て、翌日大阪ヘルスケアネットワーク普及推進機構（OCHIS）のセミナーに参加するために羽田空港から伊丹に移動。折角の国際ターミナル開業当日なので、必要もないのにわざわざ国際ターミナルの駐車場に愛車プリウスを駐車させ、新国際ターミナルをちよつと見学。時間がないのでじ



つくり見て回ることはできないが、さわりだけを一通り。昔から空港の持つ雰囲気が好きで、羽田が沖合い展開する前の古い羽田空港の時に、時間があれば空港に行つて飛行機を眺めていた（その割りに飛行機はあまり詳しくはないが）。羽田の第2ターミナルができてからは、週末、単身赴任先の東京から静岡へ車で帰るときは、羽田空港で飛行機をみながら昼食をとつて静岡に帰るといふパターンが多い。羽田が沖合い展開から第一ターミナル、第二ターミナル、そして今回のD滑走路、新国際ターミナルと着々と発展するプロセスを嬉々として味あわせて貰った、好運な人間の一人である。変化と発展・成長、これが喜びの源泉の

安全と安心の価値

ひとつだと思うが、一方で安全と安心、これもすでにそれを享受している人達にとつては見落とされがちだが、非常に重要な人間の幸せの要素であると思う。

実は21日に大阪大学中之島センターで行われた第5回OCHISセミナーに参加して、改めて痛感した事がある。それは日本の交通社会、もっと言えば日本の社会が作り上げてきた安全・安心のインフラ、あるいはそれをベースにした心の生態系の有り難さである。もちろんセミナー自体はトラックなど交通運輸事業者向けに「睡眠時無呼吸症候群」「疲労・ストレス」を管理し、如何に交通事故を減らしていくかを提案し、トラック協会や運輸事業者の取り組みの事例報告やパネラーによるディスカッションの場であった。しかし前日まで中国に滞在し、身近な交通事情（これも社会の質の端的な反映のひとつ）、格差社会の現実、経営者と労働者

の厳しい関係、夫々の価値観の断絶を目にしてきた自分にとつては、良い意味で如何にも日本的な世界だなと感じた。中国では運転手の睡眠時無呼吸症候群や疲労・ストレスを考慮する意識も議論も無いと思われるし、疲労・ストレスに耐えられないものは、次の予備軍に変えられていく。どうしても強いものが、それを極大化するための方策を優先しがちである。が、結果社会が崩壊し、棲み難くなり、安全と安心が失われていく。安全と安心はGDPでは表されにくいし、またその有り難味も失われてみないとなかなか実感できない。日本の交通環境、そしてタクシー業界の持つ安全・安心のベースについて、我々は誇りを持って良いと思うし、ある意味日本社会の反映でもあるが、またタクシー業界が作り上げてきた成果物でもあると思う。が、一方で羽田をはじめとする航空業界の持つ変化・発展のダイナミズム・ワクワク感も是非業界に欲しい！

（2010年10月24日記）

プリンター一体型業務用アルコール測定器

ALC-miniⅢ

¥83,000より

アルコールだけに反応 音声ガイドで簡単操作

コンパクトなボディにプリンタ機能搭載！
吹き込む・測定する・記録する、の
カンタン3ステップアルコール測定！

息を吹いて下さい。

2011～2012年にかけて、全ての事業者はアルコール測定器の使用が義務付けられます。
(事業用自動車総合安全プラン2009)

義務化に向けて 備えの1台です！

※表示金額には消費税、保守料等は含まれておりません。

お申し込みお問い合わせ 株式会社 システムオリジン Tel.03-3834-8352

関東支店営業本部 〒101-0021 東京都千代田区外神田 5-3-4 田中ビル7F 拠点/北海道・東北・関東・甲信越・東海・名古屋・関西・中国・九州

製造元 TD 東海電子株式会社 http://www.tokai-denshi.co.jp